

◆平成10年度総会報告◆

副委員長 中村 克宏

平成10年度総会は12月5日(土)、仙台市勾当台会館において午後5時30分定刻に開始されました。中村副委員長の司会でまず伊藤委員長より挨拶がなされ、会員諸氏のご協力のもと今年度の諸行事も無事終了出来たことにたいしての感謝の言葉が述べられました。つづいて、長田競技主任より今年度の開催諸行事の実施内容の報告がなされました。次ぎに首藤会計主任より今年度の会計報告がなされ、平成10年度の決算について高橋(恒)、村上両会計監査より、内容が適正である旨の監査結果の報告がなされて(資料-1)に示される決算案が承認されました。平成11年度の行事案およびこれにともなう予算案

(資料-2)が長田および首藤の各主任より提案され、提案通り承認されました。平成11年度の運営委員の選出に先立ち、今年度に任期満了のため退任される菅野志津子、坂爪みや、佐藤勝子、高橋明子、和田美代子の5運営委員のご苦勞に対して委員長より感謝の言葉が述べられ、出席者の拍手が送られました。平成11年度の運営委員については「執行部一任」のお言葉を頂戴して、委員長より北野妙子、佐々木つや子、澁谷妙子、武田義子、目黒祐子、八重樫トモ、梁田満寿子の七人の新任運営委員を含めた運営委員会構成員案が提出され、満場一致で可決されました。出席者のご協力により終始和やかに総会が行われ予定時間内に無事終了することが出来ました。

※※

****平成10年度大会記録****

平成10年度に開催されました各種テニス大会の記録です。宮城県壮年テニス連盟主催の大会記録は三大大会の優勝者です。公式戦については、優勝者および準優勝者です。毎年の記録は年度後半の会報に掲載が予定されております。対外試合の結果を事務局までお知らせ下さい。

大会名称	主催	期日	会場	種目	成績	氏名
年齢別ダブルス大会	宮城県壮年テニス連盟	5/16	泉総合運動場	女子40歳	優勝	山内伸子 佐藤勝子組
				女子45歳	優勝	小峰良江 玉置雪枝組
				女子50歳	優勝	酒井倭子 石橋りつ子組
				女子55歳	優勝	渋谷妙子 有賀昌子組
				女子60歳	優勝	武田義子 石垣晴子組
				女子65歳	優勝	桜井ノリエ 庄司勝子組
				男子45歳	優勝	酒井秀章 神尾一彦組
				男子50歳	優勝	佐藤 信 佐々木宏昭組
				男子55歳	優勝	有賀吟生 井澤秀雄組
				男子65歳	優勝	村上和夫 本間満雄組
男子70歳	優勝	久保寿一 桑原義美組				
技量別ダブルス大会	宮城県壮年テニス連盟	8/23	泉総合運動場	Aクラス	優勝	井澤秀雄 佐々木宏昭組
				Bクラス	優勝	和田忠彦 藤 東五郎組
				Cクラス	優勝	庄司信雄 星 健輔組
				Dクラス	優勝	本林高利 杉澤一夫組
混合ダブルス大会	宮城県壮年テニス連盟	10/24	青葉山公園	Aクラス	優勝	増田恵子 渡辺貞夫組
				Bクラス	優勝	中村京子 館内規之組
				Cクラス	優勝	加藤信子 菅野義治組
				Dクラス	優勝	八重樫和明 八重樫貞子組
宮城県春季テニス トーナメント	宮城県テニス協会	4/25	宮城野原	男子55歳S	優勝	高橋龍夫
				男子55歳D	優勝	山内宏 高橋龍夫組
宮城県テニスマスターズ 春季大会	宮城県テニス協会	5/24	宮城野原	女子60歳	優勝	菅野志津子 石垣晴子組
					準優勝	石川トヨ子 北嶋とよ組
				男子60歳	優勝	神松伊三郎 和田忠彦組
					準優勝	川口温弘 (落合忠夫)組
			男子70歳	優勝	久保寿一 桑原義美組	
				準優勝	小野泰祐 千葉鴻二組	
第二回高齢者生きがい 健康祭	仙台市	9/19	七北田公園	女子65歳	優勝	庄司勝子 奥井紀美子組
				女子60歳	優勝	石垣晴子 菅野志津子組
					準優勝	高橋明子 坂爪ミヤ組
				女子55歳	優勝	八幡順子 北野妙子組
					準優勝	加藤信子 大賀やす子組
				男子70歳	優勝	久保寿一 桑原義美組
					準優勝	伊藤一利 丸山潔組
				男子65歳	優勝	川口温弘 中村克宏組
					準優勝	本間満雄 山本忠組
				男子60歳	優勝	山内宏 高橋龍夫組
男子55歳	優勝	加藤忠良(但野久雄)組				
	準優勝	柴田賢蔵(太田貞夫)組				
宮城県テニス選手権大会	宮城県テニス協会	9/23	宮城野原	男子55歳S	優勝	藤東五郎
					準優勝	神松伊三郎
				男子55歳D	優勝	神松伊三郎 松山真水組
東北ベテランテニス 選手権大会	東北テニス協会	8/9	安比高原	男子60歳S	優勝	高橋龍夫
				男子65歳S	準優勝	川口温弘
				男子65歳D	優勝	川口温弘(落合忠夫)組
					準優勝	中村克宏 神松伊三郎組
東京オープンテニス 選手権大会	東京都テニス協会	5/3	有明の森	男子60歳S	優勝	高橋龍夫
関東オープンテニス 選手権大会	関東テニス協会	6/7	久我山朝日生命	男子60歳S	準優勝	高橋龍夫
全日本ベテランテニス 選手権大会	日本テニス協会	10/18	名古屋東山	男子60歳S	準優勝	高橋龍夫

＊私とスポーツそしてテニス＊

藤 東五郎

私は1938年8月生まれの子供である。還暦を迎えて思ったことは「還暦、これからが青春」という言葉を目標にしたいと思った。「青春とは人生のある時期をいっているのではなく、心の持ち方をいうのである」というウルマンの名言がある。頭と体と心を錆びつかせない様、新しい目標を持ちたい。宮城県テニス協会主催の大会に挑戦してみよう。五月の宮城県テニスマスターズ春季大会のダブルスに参加したら、トーナメントディレクターの高橋龍夫さんから、ねんりんピック名古屋大会への出場推薦を受けた。パートナーは利府TCの和田忠彦さんである。和田さんから七月の110歳D大会に出場しましょうとのさそいをうけて始めて宮城県壮年テニス連盟(MVTF)があるのを知ったのである。MVTFの会員でないのに、大会に出場申し込みをしてしまったので、入会することになった。十月十日に中村副委員長から原稿の依頼を妻が電話で受けた。期日は十月末日、題目は気仙沼地方のテニス事情との事。唐突で驚いたが、会報を作る側から考えると大変との経験もあり、素直に引き受けた訳でもあります。題は表記にしました。

子供の頃私は相当腕白で暴れん坊だったようだ。戦争ごっこで全身傷だらけ、あごや手に今でも傷痕が残っている。何故か十歳のとき暴れん坊を卒業した。十一歳十二歳の時は野球少年でピッチャーだった。夏の少年野球大会で準優勝したことをおぼえている。私は子供の頃から、家の仕事の手伝いを命じられた。仕事はボイラーの薪たきであり、朝早く起こされる。夏は良いのだが冬の朝はつらい。そのせいか、朝早く起きるのが苦にならない朝型人間になった。私はスポーツは太陽の下でやるもの、年をとってもやれるもの、運動量の多い個人競技と漠然と考えていた。中学になり軟式テニス部に入り、高校二年の春まで続けた。大学に入り硬式テニスに出会う。ポーン、ポーンという気持ちの良い打球音に引き付けられ、すぐさま、東北大学川内テニスクラブに入った。「テニスとは、ごく簡単に云うならば、金網の中で小さなボールを追いかけて廻しながら、いかにしてネットに引っかけないで、相手のコートへボールを送ろうかという努力の過程に過ぎないのである。されど芸術は長く、人生は短しで、ただ単に、それだけのことがいざやってみると手に負えぬ程難しいのである」とウィーン・メースが述べている。私にとって仙台は第二の故郷である。仙台市川内川前町に下宿していたので大学のテニスコートまで近い。六面のクレートコートで、夜暗くなる迄、土まみれで練習したことや、川内トーナメントで優勝したことをかすかに覚えている。1961年に気仙沼高校に硬式テニス部を創設し、コート作りから始めた。監督兼コーチで、

日没まで生徒と球を打ち合った毎日だった。昭和三十八年に三年目で宮城県大会で優勝することが出来た。後任のコーチができたので、1965年にゴルフを始めた。緑の広々としたコースに出たら、たちまちゴルフの魅力にとりつかれた。まだ気仙沼にゴルフ場がなく、初ラウンドが仙台青葉山カントリークラブ、56、52で優勝、ゴルフに夢中になり、三年でシングルに、HD5の時、1973年、やっとの事で気仙沼カントリークラブチャンピオンになることが出来た。やく十年間、テニスはブランクだった。気仙沼高校にテニス部を創設して十数年たち硬式テニス出身者や愛好者が増えて来たので1972年に気仙沼テニス協会を設立し、初代会長を十三年務めた。大学時代、これからの日本は国際時代になる。ラケット一本あれば、日本中、世界中、誰とでも友達になれると教えられていたので、気仙沼オープンテニストーナメントを開いた。

1982年にマラソンを始めた。正月元旦に知人がテニスをしていて心臓病で急死する事故がおきたのだ。自分の健康は自分で守らねばならない。よし、走るぞ！

1982年12月のホノルルマラソンの完走を目標にして、二月から走り始めた。このとき四十三才で5km走るのも大変だった。10ヶ月で42.195kmを3時間53分でやっと完走することが出来た。この時ハワイでトライアスロンがあることを知ったよし、トライアスロンをやろう、でも日本では皆生トライアスロンだけだった。走る仲間とチャレンジャークラブを作り、気仙沼トライアスロン大会を始め現在まで十四回続けているが、現役は四年前に引退した。

私は季節を区切り、色々なスポーツを楽しんでいる。冬には温かいスイミングプールで水泳。春秋はアウトドアスポーツ。ゴルフは五月と九月だけ、夏は登山だ。七年前から始め、テニス仲間と登っている。色々なスポーツをしてきたが、1997年3月に上腕二頭筋を断裂してしまう。ゴルフが出来なくなった。テニスだけは不思議とプレー出来る。腕を十分使えない分、足をこまめに使い、わきを軽くしめ、体の回転と足を連動する様にした。

よくテニスは紳士淑女のスポーツといわれているが、私の意見は反対である。頭を使い、相手をよく観察し、弱点を早く見つけ、そこを攻め続ける非情なスポーツだと思う。相手の心理を読み、その裏をかくのが面白い。テニスをやっているとき自然と体が鍛えられる。前後、左右、斜め、ダッシュ、ストップそして持久力も必要、骨粗鬆症にテニスが最適だという。テニスはマラソンや水泳などと異なり、現役を退いても、年齢に関係なく週末にテニスを楽しんでいけば、実力はむしろ向上していくスポーツだと思う。

テニスは一本の美技を争うのではなく、ポイントの

積み重ねで勝負を決するスポーツだ。腕を極力使わず、身体の回転と重心を意識することで、ミスが大分少なくなった様な気がする。大学の恩師の小山又次先生は現在84才であるが、奥さんとともに週三回のテニスを今でも楽しんでいる。私も小山先生を目標に妻とともにテニスを楽しみたいと思っている。

最後に気仙沼地方のテニス事情は、 壮年の部ではITCがあります。武田先生以下全員16名の夫婦が専用のコートで、男子ダブルスが火曜日、ミックスダブルスが木曜日に夫れ夫れ2時間、シングルスは相手を見つけて適当に楽しんでおります。気仙沼

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

* 我にたためる翼あり *

鈴木 東行

1. 10月24日「百十歳大会」^{ひゃくじゅうさい} ^{ひゃくりゅう}
 青葉城下にこだまする石中健児の勇しを、日和が丘よりきたり聞け、みよやし選手は今ぞたつ…送りの応援歌を口ずさみながら、秋晴れの「百十歳大会」に参加した。大会は「ミックスダブルス大会」とかちあって、熱戦がくりひろげられ盛り上がりを見せた。今年度、初めてのエントリーなので伊藤委員長さん、高橋さん、中村さんらは非常に喜んだ様子であった。委員長さんは私のジャケットのMVTC（宮城県壮年テニス連盟）のワッペンを見て「MVTCのMは宮城のMだ。仙台市にかたより過ぎてはいけない。石巻や涌谷のテニスの現状を会報に載せたいので一つ書いてくれませんか」と云われた。それから話はずんで次のようなことを話した。

- ① 地方に連盟支部を設けて、交流大会を開催し、会員相互の親睦を高め、同時に会員を増やす。まず石巻・涌谷あたりから。
- ② 宮城県のねんりんピックの選手数が不足している。とくに女子。
- ③ 昨年度の東北マスターステニス交流大会は宮城県が主管県なのに施設、設備の関係で山形で実施した。なさない。公営のインドアテニス場がない。その解決に向けて働きかける。それには連盟の充実、発展が望ましい。

毎回の連盟の大会の運営には、仙台の役員は多大の苦勞をしている。また、石巻、涌谷、白石などからの参加者は朝早く起き、交通費をかけて参加している。まさにドイツの前大統領の Weizsäcker の言葉 "Sich zu vereinen heißt teilen lernen" 「一つになることは、分かちあうことを学ぶことである」を實踐すべき時が来た。

2. 石巻の壮年(50歳以上)の現状
 男子(年齢)

掘野邦雄(65) H10ねんりんピック出場
 田代 寛(65) 石巻フレッシュ大会出場
 大井幸男(60) 東北都市対抗出場
 菊地繁夫(60) 東北都市対抗出場

テニス協会では40才以上のゴールデンカップ大会が6月に、45才以上の気仙沼オープンシングルスシニアを9月に行っております。

MVTFに七月に入会して、110才ダブルス大会と8月の技量別ダブルス大会に和田さんと組んでコンビネーションをはかりプレーしましたが、軟攻とロブ作戦に弱いことがわかりました。また気持ちのおごりが、いかにプレーを雑にしているか、気持ちを平常に保つ難しさを知りました。

宮城県最北端のサンマとカツオの気仙沼から時々参加致しますので、会員の皆さんには今後共に宜しくご指導とご助言をお願いいたします。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

桜井俊夫(59) 東北都市対抗出場
 佐藤俊暢(61) 土日たまにテニス
 熊谷久義(55) 土日たまにテニス
 北村信也(54) 土日にテニス
 小島一郎(52) 土日にテニス
 金田 巖(51) 土日にテニス
 四倉純一(50) 土日にテニス
 高橋伸治(50) 東北都市対抗出場、石協副会長
 石川宏治(53) ときどきテニス
 佐藤満生(57) 夜間、日テニス
 鈴木東行(73) 東北都市対抗、東北シルバー出場
 女子
 菅井良子(59) 毎日テニス



(イストも緒)

後藤とし子(53)毎日のようにテニス
 川名和子(52) 涌谷より通いたまにテニス
 佐藤美津子(51)たまにテニス

3. 私の現状 (孫娘の詩から)

※ おじいさんのピッカピッカ頭 ※

貞山小学校5年 鈴木ちがや

おじいさんの頭をみると
 ピカピカ キラキラ ピカーン
 星のように光っている。
 もう年をとったから、はげているのかなあ。
 おばあちゃんは、若い時、ふさふさしていて
 ウェーブまでついていたと言っているけど
 「ほんとかなあー」
 下の方をブラシでかきあげチェックをつけて
 できあがり

(次のページに続く)

＊「ねんりんピック」＊ 座談会

今年で11回目になりましたねんりんピックですが、毎年、宮城県チーム、仙台市チームそれぞれの主力選手として当壮年テニス連盟の沢山の会員の皆さんが活躍なさっておいでになります。今回は、ねんりんピック初出場の方々から監督経験も含めて三回以上出場の「つわもの」の方々をも交えての「ねんりんピックざっくばらんに話し合う会」の集まりを持ちました。「たてまえ」と「ほんね」がうまく交差して有意義な意見を収録できましたかどうか。

司会「皆さんご苦労さまでした。まず、宿泊関連からお話を伺いたいのですが。今まででは開催地によって種目が異なると宿泊施設にかなりの差があることがあったようですが。」

I「仙台市は本間夫妻がツインであとはシングルでした。宮城県はいかがでしたか。」

J「女性がツインで男性がシングルでした。仙台市といっしょのビジネスホテルで会場からも近く快適でした。」

司会「伊藤さんは数回行っておられますが宿はいかがでしたか。」

A「京都のときは食事の時に場所がせまくて困りました。人数がなにしろ多いですから。今回の参加者はどれくらいでしたか。」

I「テニスだけで400人くらい。」

D「全部で一万くらいでした。」

A「受け入れ側では大変ですよ。なにしろ人数が多い。」

I「私は二回目ですが、前回は安比ヴィラに泊まりましたが、あそこもよかったですね、四人一部屋くらいでしたが。」

司会「島根の時は宿がひどかったという話を聞いたように思いますがいかがでしたか。」

E「私たちは非常によかったですよ。」

G「よかったですよ、四、五人が一部屋でしたが。」

C「我々はひどかった。宮城県チームでしたが。小都市だといろいろあって。」

J「今回もテニス以外の種目で会場からかなり遠い所に泊まった人達がいたようですね。とにかく多人数ですから。」

司会「第一回は神戸ですね。昭和63年。第二回目は守田さんおいでになったんですね。」

H「あの時は旅館がスト騒ぎで。旅館を変えたりして大変でした。それに蚊がひどかったりして。」

司会「次に皆さん方のお土産話といったようなことを伺いましょうか。」

G「今回の開会式はなかなかよかったですよ。いつもですと入場行進を全員でやってその場所でアトラクションを見ていたわけですが、それで見る高さとする高さと一緒に後ろの方は見えないんです。今回

は行進は三名で残りは周りの観覧席で見えていました。会場は陸上競技場でした。」

B「行進された方の椅子をさっと運んで来ましたね。あれもよく練習したとみえて見事でした。」

J「立地条件が非常によくて最初に集合するのが野球場で開会式は総合グラウンド、休憩するところもそこにテントを張って。待たされるという点で今までで一番いいよと皆さん言っていました。割合早く着いたんですが、次から次ぎに名物のご馳走をいっぱいもって来られて感激しましたね。」

D「お茶を点てていただきました。」

A「ねんりんピックの開催は四、五年前から分かっていますから視察団を送って見てくるわけですね。それでいいところ悪いところ見て来ますから、各県工夫をしますよ。いまの座席の件も、ビニールシート一枚地面に敷いただけの所から椅子を全員に用意するとか、今回のように行進した人の椅子だけとか」

I「宮城県でやったらどうなるのかと思いますね」

B「我々も宮城県国体のときなどには是非お手伝いしなければと思いました。」

J「若い人達もいっぱい出て来てくれましたね、案内などをしてくれました。県ぐるみで歓迎された思いをしました。」

G「今回の参加が決まってから選手個人宛に（参加をお待ちしています）という挨拶状が地元のひと個人から送られてきてましてね、今までとは大分変わってきましたかね。」

A「お役人さんたちの意識もいろいろな所を見て来ていますから変わってきているんじゃないでしょうか。その土地の特色をだそうとみな一生懸命になっていますよ。」

司会「他に感心されたことがありましたら。」

I「我々も開会式の時は観覧席にいたんですがほとんど満員でその半数は地元のかたなんです。こんなに多く集まるとは、（さくら）を集めたとしてもたいしたもんだと思いました。」

D「開会式の時のマスゲームもカラフルですばらしかったです。天気がよかったですので本当に見事でした。守田さんも感激されて涙が出たとおっしゃってましたね。」

I「幼稚園の子から大人まで年齢別の演技で随分練習したようで、お天気でよかったですけれども、雨が降ったら目も当てられないだろうと思いました」

司会「守田さんは二回おいでになりましたよね。開会式について何か。」

H「第二回の大分のときが最初の参加でしたがその時は平らな埋立地で大分前になりますので詳しくは覚えておりませんが、今回のような感激はなかったです。」

司会「名古屋の場合は、近くに国体等の全国規模の大会の経験をいろいろしていますから、馴れていますよね。マスゲームとか、どういうことをやればい

いか、どのくらい費用をかければどういう事が出来るとかをよく知っていますね。それと開催県や開催都市の財力ですね。選手の輸送なども大都市と小都市ではそれぞれ別の苦勞があるだろうと思いますがいかがでしょうか。」

A「ところが輸送に関してはどこでも非常によくやっています。これは感心いたしました。」

I「我々は地下鉄を使って後は歩きました。そういう公共の乗り物を使うと楽ですよ。宮城県でやる時はどうなるでしょうかね。利府では大変だと思いますよ。開会式はどうしますかね。」

A「開会式は宮城野原でしょう。」

司会「今回は開会式で疲れ切ってしまったというようなことはなかったですか。」

I「やはりありましたね。テニスよりも時間がかかって疲れまして。」

C「今回は時間が短かったとおもいますよ。行進の人数が少なかったから半分の時間で済んだんじゃないですか。挨拶も座っている時間が多かったから体は楽でした。私は今回をいれて六回参加していますが行進させられなかったのがとても楽であったと思います。女性二人と最高齢者の三人だけでしたから行進したのは、行進された方は大変です、整列しまたされて。」

A「いろいろ拘束されて大変なんです。厳しすぎますよ。何時迄どこにいて、動いてはいけないとか。しかし考えようではテニスだけやりに行くのであればもっと手軽にという意見もあるのでしょうか、言ってみればお祭りですから隣の人と話が出来ますし、適当にエンジョイしていればいいんですよ。」

D「すばらしいブラスバンドの音楽に合わせて行進して、私など一生に一度しかない経験をいたしました。大きく手を振りまして気持ちよく行進いたしました。緑のハンカチを持ちまして。」

I「宮城県はハンカチでしたか。仙台市は先頭の一人が小さい七夕飾りを持っていました。」

A「前の時は、ミニ七夕飾りは行進の後で観客に配って好評でした、全員が持っていましたね。山形の花笠も好評でした。」

C「宮城県は例年緑のハンカチのようでしたよ。」

D「ユニホームを支給していただいて恐縮だなと思いつながら家から駅まで着て行くのが気恥ずかしかったんですが、ユニホームというのは、岡崎さんとも話をしたのですが、良い効果がありまして、駅ですぐ仲間が分かりましたし、各県毎にそれぞれ工夫されてありましたので見て楽しかったです。」

G「ユニホームのサイズが問題なんです。L、M、Sとあってそれに身長はいくら胴回りがいくらとあるんだけど、着てみると合わない。今回だけではないんです。それで結団式のときにだぶだぶのを着ていたら市の役員がみっともないということで交換してくれました。女性は皆びしょっと合ったのを着

ていましたね。他県の女性もみたんですが、あれ手直しして着ているんですね。肩周りなんかきちんとしていました。」

I「競技別にユニホームがあればいいんですが。」

G「そうですね。仙台市のはテニスでは着れないものでした。宮城県のものはよかったです。他県のゲートボールの人でしたが仙台市のをみてこれは良いなど言っていましたし、家内は北海道の人とユニホームを交換していました。それから、今回はユニホーム代金の三分の一が個人負担だったんです。これは初めてですね、多分。」

I「従来は交通費は仙台市がもって宿泊は個人負担だったんですが今回はその代わりに宿泊費の一日分を仙台市がもって負担していました。」

C「宮城県では宿泊費は三日自己負担です、弁当代と。去年の酒田の時は交通費が安く済んだので宿泊費にまわしてくれたようですが、ところが、今回は帰りに東京の親戚によって行くという人が三人いたんです。そうしたら、東京で降りたらその後の交通費は自分で出さない。帰りの電車の時刻も決められていたんですね。団体キップだったんですね。」

J「それがもし決勝に残ったらこの時刻にはその団体電車にのれないのです。テニスの勝ち負けをこの時刻に合わせなければいけない、勝つわけにはいかないんです。」

A「従来は帰りの足代は各人に現金で支給していました。記録をみても三回ともそうです。我々行く者の立場からするとせめて仙台市と宮城県はやり方を同じにしてほしいですね。」

C「出場選手と市、県の間で反省会のようなものが従来もなかったようにおもいますが……。来年の監督会議の時位しか機会がないんですね。」

A「その時は監督も変わっていますし、市や県の担当者も変わっていますから。」

J「県の場合は、いきいき財団、それから市の担当者和我々との話し合い、これは金がかかるかもしれないが宮城県でやる場合の参考になるんじゃないかと思います。」

A「県の選手の場合は県に、市の時は市に大会が終わってから三回報告書を出しました。しかし、都合の良いところはとって何も具体的にことはやってくれませんでした。お世話の役人の方も最初の頃は全体で数人、テニスの世話ばかりはやれないという状態でしたから。」

C「今年は宮城県のほうではいきいき財団の係長が付きっきりで世話してくれました。」

G「仙台市は中村さんといってテニスをなさる方がついて来られて熱心に応援してくれました。各種目にたいしては一人はついていたようです。」

J「テニスの開始式は簡単でした。しかし、福井プロと中村プロが始球式というかそういうことをやってくれました。」

C「この時、いろいろ表彰をやるんですが、昨年酒田では宮城県はチーム最高齢者ということで表彰されました。」

I「ゴルフでは95歳の方がいましたよ。」

C「開催県によってやりかたが変わっていて、今回はご夫婦出場の表彰はなかったですが、開催期間中に誕生日を迎えた人の表彰とかそういうものがありました。初めてでしょうね。選手が決まった段階でこういう特別な人がいますよということを事前に知らせて下さいと言っていますね。それで、仙台市と宮城県で兄弟三人というのがありますがこれなんかいいんじゃないですかね、表彰の対象に。」

A「選手選考についても各県いろいろでして強いチームを出してくるところもあれば、高齢者から出してくる所もある。」

J「選手選考のことで対戦した三重県の方と話をしたんですがやはりめめるらしいですね。その時、私は出来るだけ沢山の人が出るほうがいいんじゃないかと思いました。」

A「過去にもある県で全日本クラスの人が何回も続けて出てくるケースがありました。監督会議の時何回ももめました。そこの監督さんは小さい所はこれしか選手がいませんというんですがね。年寄りのお祭りですから、皆さんがおっしゃったように開会式の素晴らしい経験を多くの方に味わって頂いたほうがいいと思いますよ。」

J「勝ち負けに拘っても、4ゲーム先取、ノーアドでは選手の方は出ないでしょう。」

A「4ゲーム、ノーアド方式は京都の時から始まったものです。高齢者にたいする体力的なことも配慮に入っているのでしょうか。」

J「選手選考の方法、資格等は全国的に統一してほしいですね。」

A「多数の参加が望ましいことですが、人数に限りが有りますから、せめて高齢者を対象にした県とか市の大会をもう少しやってもらえないだろうか、あるいは、高齢者が自由に使えるコートを用意してもらえないだろうかと思えますね。仙台市が一昨年からですか、いきいき健康祭りを始めたのは良いことだと思いますね。宮城県でねんりんピックをやるうとしたら場所は利府のコートですかね。」

C「利府の県営コートは宿泊施設付きなので今後の大会前の合宿などに是非利用して下さいといっています、いきいき財団の方からですが。」

A「ただあそこは市内から遠いでしょう、ハードコートでオムニでない、それから屋根付きでもない。」

J「名古屋は室内四面、いいコートでした。」

A「四日市や熊本市では12面室内コートがある。」

C「国体は利府でやるんですかね。」

A「やらない。泉のコートです。初めから。それで泉のドームに室内コートを6面臨時に作るということですがドームそのものは軟式野球場なんだそうで

す。その外野かなにかに6面作るということですね」
「利府のコートは表面はラバーのようなもので現在6面でできています。全部の面数は計画の時からみるとだいぶ減らされているようです。国体をやらないということでそうなったんでしょうが。」

C「名古屋の室内コートは上から覗いてただけですがいっぺんやってみないかなと思うような立派なコートでした。」

J「その室内コートにたまたまいったら、プロが二人いましてね、ワンポイントレッスンをやるから体の空いているもの来いというんでね、四、五人いたアシスタントとゲームをやりながらレッスンを受けてきました。」

A「仙台にも室内コート、それも多目的でないもの、せめてゲートボールとテニスくらいのを是非作ってほしいですね。」

司会「選手選考にちょっと戻るかもしれませんが、ねんりんピックにはいろいろな種目があって60歳以上であれば参加できるということが意外に知られていないんですね。県政だよりや市政便りみたいなものに載せてはいるんですが、ほとんど見逃されているか、見ても自分でどうすればいいかわからないひとが多いのではないのでしょうか。」

A「県も市も各競技団体に推薦をお願いしているんですが、テニスは昨年から市は市のテニス協会がやるようになりました。従来は県テニス協会が県、市両方の選考をやっていました。」

I「たしかに仙台市以外の方は壮年テニス連盟におはいりになっていないとご存じないと思えますね。」

C「それについて今日私も考えて来たのですが、県南と県北に分けるとか、女子の数が問題になりますがそういう地方の人達の発掘も我々には必要だろうと思えます。」

A「今日はねんりんピックの座談会ですが実は壮年テニス連盟のかかえている問題もそこなんです。殆どの会員が仙台市なんです。県南支部とか県北支部があって、石巻とか。全県的な組織にする努力が必要だと思います。」

C「米竹さんというのが一緒にやっていますが、そういうことなら人を集めなくっちゃといっています。地区毎の予選をやれば人も集めやすいと思えますね。」

A「お世話役が必要ですね。県南は加藤さんがいらっしゃるし、県北は今度気仙沼の藤さんが行かれたし、和田さんもお世話役お願いできるので、県内で各地区の交流試合のようなものが出来るといいですね。岩手県では三地区（盛岡とあと二地区）に分けて対抗戦をやっているようです。そこいらを来年度の課題にしたいですね。」

J「そうですね。ねんりんピックだけを念頭に置くのではなくて、全県的な組織にすることは選手を掘り起こすことも含めて大事なことです。従来仙台市の方が大部分だったでしょうから会の運営も仙台

